資治通鑑 第168巻

【陳紀二】　起上章執徐，盡玄黓敦牂，凡三年。

■梁、●北周、北齊北齊、続国訳漢文大成 経子史部 第10巻 029p

世祖文皇帝上天嘉元年（庚辰，５６０年）

■**春，正月**，癸丑（49-49+1=１日）朔，大赦し，改元す。

北齊齊は大赦し，改元して乾明とす。

■辛酉（57-49+1=９日），**上**は南郊に祀す。

北齊［太皇太后の高湜への仕返し］齊の高陽王の**湜**は，滑稽（滑は亂なり、稽は同なり。辨倢の人は非を言うこと是の若く、是を言うこと非の若く、能く同異を言う。一説に滑稽は元は酒を注ぐ器、轉注して酒を吐くこと終日已まず。口を出でて章を成し、詞は窮竭せざること、滑稽の酒を吐くが如くなるを言う。又一説に滑稽は猶ほ俳諧のごとし。諧語滑利にして其の智計疾く出ずるを言う）便辟（威儀に習うてしかも直ならざるをいう。人の意を迎えて媚び諂う）を以て**顯祖**に寵有り，常に左右に在り，杖を執り以て諸王を撻ち，**太皇太后**は深く之を銜む。**顯祖**の殂するに及び，**湜**は罪有り，**太皇太后**は之を杖つこと百餘。癸亥（59-49+1=１１日），卒す。

■辛未（7+60-49+1=１９日），**上**は北郊を祀る。**(10-030p)**

北齊**齊主**は晉陽より還りて鄴に至る。

【王琳勢力の壊滅】

■［王琳についた紀機を討伐］**二月**，乙未（31-19+1=１３日），高州刺史の**紀機**は軍所（侯瑱の軍前）より逃げて宣城（安徽省蕪湖道南陵県、現・宣城市宣州区）に還り，郡に據りて**王琳**に應じて，涇（安徽省蕪湖道涇県、現・宣城市涇県）の令の**賀當遷**は討ちて之を平らぐ。

■北齊［王琳の水軍に齊の援軍］**王琳**は柵口（濡須口の東、水は巣湖に注ぐ）に至り，**侯瑱**は諸軍を督して出でて蕪湖に屯し，相い持つこと百餘日。東關の春水は稍長じ，舟艦は通じるを得，**琳**は合肥・巢湖之衆を引いて，舳艫は相い次いで而して下り，軍勢は甚だ盛んなり。**瑱**は進みて虎檻洲に軍し，**琳**も亦た船を出して江西に列し，洲を隔てて而して泊す。明くる日，合戰し，**琳**の軍は少しく卻き，退きて西岸を保ち。夕に及びて，東北の風大いに起き，其の舟艦を吹きて並びて壞れ，沙中に沒す。浪は大きく，浦に還るを得ず。旦に及び，風は靜まり，**琳**は浦に入りて船を治め，**瑱**等も亦た軍を引いて退きて蕪湖に入る。周人は**琳**の東に下るを聞き，都督荊、襄等五十二州諸軍事、荊州刺史の**史寧**を遣わして兵數萬を將いて虛に乘りて郢州を襲わしめ，**孫瑒**（去年王琳は東に下るに際して留め置く）は城を嬰して自ら守る。**琳**は之を聞き，其の衆の潰えるを恐れ，乃ち舟師を帥いて東下し，蕪湖を去ること十里而して泊り，擊柝（木を擊つ音）は陳軍に聞こえる。齊の儀同三司の**劉伯球**は兵萬餘人を將いて**琳**を助けて水戰し，行台の**慕容恃德**之子の**子會**は鐵騎二千を將いて，蕪湖の西岸に屯し，之が聲勢を為す。

■北齊［王琳は水戦に敗れ齊に亡命］丙申（32-19+1=１４日），**瑱**は軍中に令して晨に炊いて蓐食せしめ以て之を待つ。時に西南の風は急なり，**琳**は自ら謂うに天の助けを得たりと，兵を引いて直ちに建康に趣く。**瑱**等は徐（おもむろ）に蕪湖に出でて其の後を躡（ふ）み，西南の風は翻りて**瑱**の用を為す。**琳**は火炬を擲ちて以て陳船を燒き，皆な反りて其の船を燒く。（風に逆らいて火計を用いて失敗）**瑱**は拍（拍竿、大型の水戰用の金槌、竿の先に重りを付け、綱で引っ張って打ち落とす）を發し以て**琳**の艦を擊ち，又た牛皮を以て蒙沖（戰船）小船を冒（おお）い以て其の艦

に觸れ，並せて熔鐵を之に灑(そそ)ぐ。**琳**の軍は大敗し，軍士の溺死する者は什に二三，餘は皆な船を棄てて岸に登りて走り，陳軍の殺す所と為り殆んど盡く。齊の歩騎の西岸に在る者は，自ら相い蹂踐し，並せて蘆荻泥淖（濘泥）の中に陷る。騎は皆な馬を棄てて脫走し，免るるを得る者は什に二三。**劉伯球**、**慕容子會**を擒り，斬獲は萬を計り，盡く梁、齊の軍資器械を収める。**琳**は舸艦に乘り陳を冒して走り，湓城に至り，離散を收合せんと欲し，衆の附く者無し，乃ち妻妾左右十餘人と齊に奔る。

■北齊［蕭莊も齊に亡命］是より先，**琳**は侍中の**袁泌**、御史中丞の**劉仲威**をして永嘉王の**莊**を侍衛せ使む。敗れるに及び，左右は皆な散る。**泌**は輕舟を以て**莊**を送りて齊境に達し，拜辭し而して還り，遂に來降す。**仲威**は**莊**を奉じて齊に奔る。**泌**は，**昂**（齊梁の間に名声あり）之子也。**樊猛**及び其の兄の**毅**は部曲を帥いて來降す。（これより江南はみな陳に属す）

北齊齊は**文宣皇帝**を武寧陵に葬し，廟號を**高祖**とし，後に改めて**顯祖**と曰う。

■［王琳勢力への赦免］戊戌（34-19+1=１６日），詔す、

「衣冠の士族、將帥戰兵の陷りて**王琳**の黨中に在る者は，皆な之を赦し，材に隨いて銓敘すべし。」(10-031p)

北齊己亥（35-19+1=１７日），齊は常山王の**演**を以て太師、錄尚書事と為し，長廣王の**湛**を以て大司馬、並省（晉陽は幷州なり）錄尚書事と為し，尚書左僕射の平秦王の**歸彥**を司空と為し，趙郡王の**睿**を尚書左僕射と為す。

■［元氏の解放令］詔す、

「諸**元**の良口の配沒して官に入り及び人に賜る者は並びて縦(はな)ち遣るべし。」（良口のみ解放）

■乙巳（41-19+1=２３日），太尉の**侯瑱**を以て湘、巴等五州諸軍事を都督し，湓城に鎮せしむ。

【高演の政権奪取】

北齊［高演は禁中を出る］齊の**顯祖**之喪に，常山王の**演**は禁中に居りて喪事を護し，**婁太后**は之を立てんと欲し而して果たさず。**太子**は即位し，乃ち朝列に就く。**天子**の諒陰を以て，**演**に詔して東館（鄴宮の昭陽殿の東）に居り，奏せんと欲する之事は，皆な先ず咨決せしむ。**楊愔**等は**演**と長廣王の**湛**との位地の親逼するを以て，**嗣主**に利あらざるを恐れ，心に之を忌む。居ること之頃(しばらく)して，**演**は出でて第（常山王邸）に歸り，是より詔敕は多く關預せず。

北齊［探卵之患い有り］或は**演**に謂って曰く、

「鷙鳥巢を離れれば，必ず探卵之患い有り。今日**王**は何ぞ宜しく屢々出ずるや？」

中山太守の**陽休之**は**演**に詣り，**演**は見えず。**休之**は王友の**王晞**に謂って曰く、

「昔**周公**は朝に百篇の書を讀み，夕べに七十士に見え，猶ほ足らざるを恐れる。錄王（王でなおかつ尚書を錄す）は何の嫌疑する所ありてか，乃ち爾く賓客を拒絕するや！」

北齊［王晞は高演の決起を促す］是より先，**顯祖**之世，群臣人々は自ら保たず。**濟南王**の立つに及び，**演**は**王晞**に謂って曰く、

「一人垂拱し，吾が曹も亦た優閒を保つ。」

因りて言う、

「朝廷は寬仁にして，真に守文の良主なり。」

晞は曰く、

「**先帝**の時，**東宮**は一胡人に委ねて之を傅(ふ)たらしむ。今春秋は尚ほ富み，驟(にわか)に萬機を覽る，**殿下**は宜しく朝夕先後して，親ら音旨を承くべし。而るに他姓をして詔命を出納せ使めれば，大權は必ず歸す所有り，**殿下**は籓を守らんと欲すると雖も，其の得る可けん邪！借令(たとい)沖退を遂げるを得るとも，自ら家祚（国祚の意味、演は叔父の親を以て國と休戚を同じくす）を審かにして靈長を保つを得ん乎？」

演は默然として之久しく，曰く、

「何を以て我を處せん？」

晞は曰く、

「**周公**は**成王**を抱きて攝政七年，然る後に子明辟に復す（嗣子たる明君、則ち周の成王に政を復す、書経の語），惟だ**殿下**は之を慮るべし！」

演は曰く、

「我は何ぞ敢えて自ら**周公**に比せん！」

晞は曰く、

「**殿下**の今日の地望は，**周公**爲(た)らざらんと欲するとも，得ん邪？」

演は應えず。**顯祖**は常に胡人の**康虎兒**をして**太子**を保護せ使め，故に**晞**の言は之に及ぶ。

北齊［高演は皇帝に同行させられる］**齊主**は將に晉陽を發せんとし（位を継ぎて鄴に戻る、即位礼は常に晉陽），時議謂えらく**常山王**は必ず當に留まりて根本之地（高歡の立つ根拠地晉陽）を守るべし。執政は**常山王**をして**帝**に從いて鄴に之か使め，**長廣王**を留めて晉陽に鎮せしめんと欲す。既に而して又た之を疑い，乃ち二王に敕して俱に從いて鄴に至らしむ。外朝は之を聞き，駭愕せざるは莫し。又た敕して**王晞**を以て并州長史と為す。**演**は既に行き，**晞**は郊に出でて之を送る。**演**は覘察する有るを恐れ，**晞**に命じて城に還らしめ，

(10-032p) 晞の手を執りて曰く、

「努力して自ら慎しむべし！」

因りて馬を躍らせ而して出ず。

北齊［歸彥は楊愔を怨む］平秦王の**歸彥**は禁衛を總知し，**楊愔**は敕を宣して從駕五千の兵を西中（晉陽は鄴の西に在り）に留めしめ，陰に非常に備える。鄴に至りて數日，**歸彥**は乃ち之を知り，是に由りて**愔**を怨む。

北齊［二王を警戒する帝側近］領軍大將軍の**可朱渾天和**は，**道元**（隴右より高歡に帰す）之子也，**帝**の姑（高歡の女）の**東平公主**に尚し，毎に曰う、

「若し二王を誅せざれば，**少主**は自ら安ずる之理無し。」

燕子獻は**太皇太后**を北宮に處き，政を**皇太后**に歸さ使めんと謀る。

北齊［歸彥は二王に帰す］又た天保八年より已來，爵賞は多く濫なり，**楊愔**は澄汰（水を以て喩える、澄は泥滓を去り、汰は砂石を去る）を加えんと欲し，乃ち先ず自ら表して開府及び開封王を解き，諸々の叨(みだり)に恩榮を竊む者は皆な黜免に從う。是に由りて嬖寵の職を失う之徒は，盡く心を二叔（演・洪）に歸す。平秦王の**歸彥**は初め**楊**、**燕**と同心し，既に而して中ごろ變じ，盡く疏忌之跡を以て二王に告げる。

北齊［宋欽道は二王の排除を進言］侍中の**宋欽道**は，**弁**（孝文帝に信任される）之孫也，**顯祖**は東宮に在りて，**太子**に教えるに吏事を以てせ使む。**欽道**は面のあたりに**帝**に奏して，稱す、

「二叔の威權は既に重し，宜しく速かに之を去るべし。」

帝は許さず，曰く、

「令公(楊愔、時に尚書令)と共に其の事を詳(つまびらか)にす可し。」

北齊［二王の分断をはかる］**愔**等は二王を出して刺史と為さんと議し，**帝**の慈仁なるを以て，奏する所

を可からずとなすを恐れ，乃ち**皇太后**に通啟し，具(つぶさ)に安危を述べる。宮人の**李昌儀**（太后の女官）は，即ち**高仲密**之妻（妻によりて 158 巻梁の武帝大同九年に外反す）也，**李太后**は其の同姓なるを以て，甚だ相い暱愛し，啟を以て之に示す。**昌儀**は密に**太皇太后**に啟す。**愔**等は又た二王をして俱に出で令めざるを議し，乃ち奏して長廣王の**湛**を以て晉陽に鎮し，常山王の**演**を以て尚書事を錄せしむ。二王は既に職を拜し，乙巳（41-19+1=２３日），尚書省に於いて大いに百僚を會す。**愔**等は將に之に赴かんとし，散騎常侍兼中書侍郎の**鄭頤**は之を止めて曰く、

「事は未だ量る可からず，宜しく輕々しく脫すべからず。」

愔は曰く、

「吾等は至誠國を體す，豈に常山職を拜するに赴かざる之理有らんや！」

北齊［高湛のクーデター］長廣王の**湛**は，且(あした)に家僮數十人を錄尚書後室（尚書の宴息の場所）に伏せ，仍ほ席上の勳貴の**賀拔仁**、**斛律金**等數人の相い知ると約して曰く、

「酒を行いて**愔**等に至り，我は各々雙杯を勸めれば，彼は必ず辭を致さん。我が一に『酒を執れ』と曰い，二に『酒を執れ』と曰い，三に『何ぞ執らざる』と曰い，爾が輩は即ち之を執れ！」

宴に及びて，之の如くし，**愔**は大言して曰く、

「諸王は反逆し，忠良を殺さんと欲する邪？**天子**を尊び，諸侯を削り，赤心國に奉じ，何の罪か之れ有らん！」

常山王の**演**は之を緩めんと欲す。**湛**は曰く、

「可からず。」

是に於いて拳杖亂毆し，**愔**及び**天和**、**欽道**は皆な頭面血流れ，各々十人之を持す。**燕子獻**は多力にして，頭も又た發少なし，狼狽して衆を排し走りて門を出，**斛律光**は逐(お)いて而して之を擒とす。**子獻**は歎じて曰く、

「丈夫は計を為すこと遲く，遂に此に至る！」

太子の太保の**薛孤延**等をして**頤**を尚藥局（門下省の藥局方）に執らえ使む。(10-033p)

頤は曰く、

「智者の言を用いずして此に至る，豈に命に非ざる也！」

北齊［二王は王宮に突入］二王は平秦王の**歸彥**、**賀拔仁**、**斛律金**と**愔**等を擁して唐突（不遜）に雲龍門に入り，都督の**叱利騷**を見，之を招けども，進まず，騎をして之を殺さ使む。開府儀同三司の**成休寧**は刃を抽きて**演**を呵し，**演**は**歸彥**をして之を諭さ使め，**休寧**は厲聲して從わず。**歸彥**は久しく領軍為り，素より軍士の服する所と為り，皆な仗を弛め，**休寧**は方に歎息し而して罷む。**演**は入り，昭陽殿に至り，**湛**及び**歸彥**は朱華門（北齊の禁中に朱華閣あり）の外に在り。**帝**は**太皇太后**（皇太后が欠如か）と並び出で，**太皇太后**は殿上に坐し，**皇太后**及び**帝**は側に立つ。**演**は磚（粘土を焼いた瓦）を以て叩頭し，進言して曰く、

「臣は**陛下**と骨肉の至親なり，**楊遵彥**（楊愔の字）等は獨り朝權を擅にせんと欲し，威福は己よりし，王公より已下は皆な足を重ね氣を屏(おお)う。共に相い脣齒し，以て亂階と成す。若し早く圖らざれば，必ず宗社之害と為らん。臣は**湛**と國事の重きが為に，**賀拔仁**、**斛律金**は**獻武皇帝**之業を惜しみ，共に**遵彥**等を執りて宮に入り，未だ敢えて刑戮せず。專輒（專擅）之罪は，誠に萬死に當たる。」

北齊［太皇太后は娥永樂を制止］時に庭中及び兩廡の衛士二千餘人は，皆な甲を被りて詔を待つ。武衛の**娥永樂**は，武力絕倫なり，素より**顯祖**の厚き所と為り，刀を叩きて仰視し，**帝**は之を睨（邪に見る）せず。**帝**は素より吃訥（前巻武帝永定三年にあり）なり，倉猝にして言う所を知らず。**太皇太后**は仗を卻けせ令めて，

退かず。又た聲を厲まして曰く、
「奴輩は即ち今頭落ちんとす！」（胡三省曰く、未だ退かざるの時に當り、宇文覺をして之を処せしめば、常山・長廣は身首分かれしならんと）
乃ち退く。**永樂**は刀を內れ而して泣く。
北齊［太皇太后のわずかな抵抗］**太皇太后**は因りて問う、
「**楊郎**（楊愔は主の婿なりて郎という）は何くに在るや？」
賀拔仁は曰く、
「一眼は已に出ず。」
太皇太后は愴然として曰く、
「**楊郎**は何ぞ能く為す所ありや，留使（之を留めて以て任使する）するは豈に佳ならず邪！」
乃ち**帝**を讓めて曰く、
「此等は逆を懷き，我が二子（演と湛）を殺さんと欲す，次は將に我に及ばんとする，爾は何為れぞ之を縱にするや！」
帝は猶ほ言う能わず。**太皇太后**は怒り且つ悲しみて，曰く、
「豈に我が母子をして漢の老嫗（李太后は華続、太皇太后は鮮卑）の斟酌を受け使む可けんや！」
太后は拜謝す。**太皇太后**は又た**太后**の為に誓言す、
「**演**は異志無し，但だ逼を去らん（楊愔等は疏を以て威に踰ゆ、故に之を去らん）と欲す而して已む。」
演は叩頭して止まず。**太后**（北齊書楊愔傳には太皇太后）は**帝**に謂う、
「何ぞ爾の叔を安慰せざるや！」
帝は乃ち曰く、
「**天子**も亦た敢えて叔の為に惜しまず，況んや此の漢の輩をや！但だ兒の命を丐う，兒は自ら殿を下りて去らん，此の屬は叔父の處分に任す。」
遂に皆な之を斬る。
北齊［鄭頤・娥永樂の誅殺］長廣王の**湛**は**鄭頤**が昔嘗て己を讒するを以て，先ず其の舌を抜き，其の手を截ち而して之を殺す。**演**は平秦王の**歸彥**をして侍衛之士を引いて（10-034p）華林園（魏の武帝の旧）に向かわ令め，京畿の軍士（高歡は魏主を鄴に遷し、自身は晉陽に居り、其の子を以て京畿の大都督と為し、内外を防遏せしむ）を以て入りて門閣を守り，**娥永樂**を園に斬る。
北齊［太皇太后は愔の一眼を親ら內れる］**太皇太后**は**愔**の喪に臨み，哭して曰く、
「**楊郎**は忠に而して罪を獲たり。」
御金（御府の金）を以て之が一眼を為り，親ら之を內れて，曰く、
「以て我が意を表す。」
演も亦た之を殺すを悔いる。是に於いて下詔して**愔**等を罪狀し，且つ曰く、
「罪は一身に止まり，家屬は問わず。」
之頃して，復た五家（楊愔・可朱渾天和・燕子獻・宋欽道・鄭頤）を簿錄す。**王晞**は固く諫め，乃ち各々一房を沒し，孩幼は盡く死し，兄弟は皆な除名される。
北齊［騏驎を殺し蹇驢を策つ］中書令の**趙彥深**を以て**楊愔**に代わりて機務を總べしむ。鴻臚少卿の**陽休之**は私に人に謂って曰く、
「將に千里を涉らんとし，騏驎（駿馬）を殺し而して蹇驢（足を引きずる驢馬）を策つ，悲しむ可き之甚だしき

也！」

北齊［高演政権の新体制］戊申（44-19+1=２６日），**演**を大丞相、都督中外諸軍、錄尚書事と為し，**湛**を太傅、京畿大都督と為し，**段韶**を大將軍と為し，平陽王の**淹**を太尉と為し，平秦王の**歸彥**を司徒と為し，彭城王の**浟**を尚書令と為す。

【陳は混乱の目を摘む】

■［陳昌の帰国の波乱］江陵之陷ちる也（165 巻梁の元帝承聖三年にあり），長城の世子の**昌**（陳覇先は長城公に封じられ、昌を長子と為す）及び中書侍郎の**頊**は皆な長安に沒す。**高祖**が即位するや，屢々之を周に請い，周人は許し而るに遣らず。**高祖**は殂し，周人は乃ち**昌**を遣り還し（陳を間し以て兄弟争いをさせる為），**王琳**之難を以て，安陸に居る。**琳**は敗れ，**昌**は安陸（王琳が居て建康に帰れず）を發し，將に江を濟らんとし，書を**上**に致し，辭は甚だ不遜なり。**上**は懌さず，**侯安都**を召して從容として謂って曰く、

「**太子**は將に至らんとす，須く別に一籌を求め歸老之地と為すべし。」

安都は曰く、

「古より豈に代わらるるの**天子**有らんや！臣愚は，敢えて詔を奉ぜず。」

因りて自ら**昌**を迎えんと請う。是に於いて群臣は上表し，**昌**に爵命を加えんと請う。庚戌（46-19+1=２８日），**昌**を以て驃騎將軍、湘州牧と為し，衡陽王に封じる。

北齊［高演は簒奪躊躇］齊の大丞相の**演**は晉陽に如き，既に至り，**王晞**（晉陽駐留）に謂って曰く、

「卿の言を用いず，幾んど傾覆に至らんとす。今君側は清むと雖も，終に當に何を以て我を處するや？」

晞は曰く、

「**殿下**は往時の位地は，猶ほ名教を以て出處す可し。今日の事勢は，遂に天時に關す，復た人理の及ぶ所に非ず。」

演は趙郡王の**睿**を奏して左長史と為し，**王晞**を司馬と為す。**三月**，甲寅（50-48+1=３日），詔す、

「軍國之政は，皆な晉陽に申し，大丞相の規算を稟けしむ。」

■●［孫瑒の来降］周軍の初めて至るや，郢州の助防の**張世貴**は外城を舉げて以て之に應じ，失う所の軍民は三千餘口。周人は土山、長梯を起こし，晝夜之を攻め，風に因りて火を縱ち，其の內城の南面五十餘樓を燒く。**孫瑒**の兵は千人に滿たず，身自ら撫循し，酒を行い食を賦し，士卒は皆な之が為に死戰す。周人は克つ能わず，乃ち**瑒**に柱國、郢州刺史を授け，萬戶郡公に封じる。**瑒**は偽りて許し以て之を緩め，而して潛に（10-035p）戰守之備えを修め，一朝而して具（そな）わり，乃ち復た拒み守る。既に而して周人は**王琳**の敗れ，陳兵は將に至らんとするを聞き，乃ち圍みを解いて去る。**瑒**は將佐を集めて之に謂って曰く、

「吾は王公と同じく梁室に獎め，勤めること亦た至れり矣。今時事は此くの如し，豈に天に非ず乎！」

遂に遣使して奉表し，中流之地を舉げて來降す。

■［熊曇朗の滅亡］**王琳**之東に下る也，**帝**は南川の兵を征し，江州刺史の**周迪**、高州刺史の**黃法𣰰**は舟師を帥い將（斜×）に之に赴かんとす。**熊曇朗**は城に據り艦を列し，其の中路を塞ぎ，**迪**等は**周敷**と共に之を圍む。**琳**は敗れ，**曇朗**の部衆は心を離し，**迪**は攻めて其の城を抜き，男女萬餘口を虜とす。**曇朗**は走りて村中に入り，村民は之を斬る。丁巳（53-48+1=６日），首を建康に傳え，盡く其の族を滅す。

北齊■齊軍は先に魯山を守り，戊午（54-48+1=７日），城を棄てて走り，南豫州刺史の**程靈洗**に詔して之を守らしむ。

■甲寅（50-48+1=３日），武州（梁は武州を武陵に置く。帝は荊州の義陽・天門郡・郢州の武陵郡を分けて武州を置き、沅州を督

し、武陵太守を領し、武陵郡に治す。其の都慰の所部六県を沅州と為し、別に通寧郡を置き、刺史を以て太守を領し、都慰城に治し、旧都慰を省く)、沅州を置き，右衛將軍の**吳明徹**を以て武州刺史と為し，**孫瑒**を以て湘州刺史と為す。**瑒**、懷は自ら安んぜず，固く入朝せんと請い，征して中領軍と為す。未だ拜せず，吳郡太守に除せられる。

北齊壬申（8+60-48+1=２１日），齊は**世宗**之子の**孝珩**を封じて廣寧王と為し，**長恭**を蘭陵王と為す。

■［侯安都は陳昌を溺死させる功績］甲戌（10+60-48+1=２３日），衡陽の獻王の**昌**は入境し，主書、舍人に詔して道に緣いて迎候せしむ。丙子（12+60-48+1=２５日），江を濟り，中流にして，之を隕（お）とし，溺を以て告げ使む。**侯安都**は功を以て爵を清遠公に進められる。

■●［陳と周の修好］初め，**高祖**は滎陽の**毛喜**を遣わして安成王の**頊**に從いて江陵に詣らしめ，梁の**世祖**は**喜**を以て侍郎と為し，長安に沒し，**昌**と俱に還り，因りて和親之策を進める。**上**は乃ち侍中の**周弘正**をして好みを周に通ぜ使む。

■**夏，四月**，丁亥（23-18+1=６日），皇子の**伯信**を立てて衡陽王と為し，獻王の祀りを奉ぜしむ。

【北周の宇文邕、北齊の高演相継いで即位】

●［宇文護は世宗を毒殺、遺詔は五百餘言］周の**世宗**は明敏にして識量有り，晉公の**護**は之を憚り，膳部中大夫（冢宰に属し六命の官）の**李安**をして毒を糖［食追］（丸餅）に置きて而して之を進め使む。**帝**は頗る之を覺り，庚子（36-18+1=１９日），大漸（帝王の病気が大いに進む）なり，口授遺詔は五百餘言なり，且つ曰く、「**朕**の子は年幼く，未だ國に當たるに堪えず。**魯公**は，**朕**之介（大）弟なり，寬仁にして大度なり，海內は共に聞く。能く我が周家を弘めるは，必ず此の子也。」

辛丑（37-18+1=２０日），殂す。（年27）

●［宇文邕の即位］**魯公**は幼くして器質有り，特に**世宗**の親愛する所と為り，朝廷の大事は，多く之と參議す。性は深沉にして，遠識有り，顧問に因るに非ざれば，終に輒ち言わず。**世宗**は毎に歎じて曰く、「夫の人は言わず，言えば必ず中（あ）たる有り。」（論語先進篇の孔子の言）

壬寅（38-18+1=２１日），**魯公**（宇文邕、字は彌羅突、宇文泰の第四子）は**皇帝**に即位し，大赦す。

北齊**五月**，壬子（48-47+1=２日），齊は開府儀同三司の**劉洪徽**を以て尚書右僕射と為す。**(10-036p)**

■［侯安都一族の厚遇］**侯安都**の父の**文捍**は始興內史と為り，官に卒す。**上**は其の母を迎えて建康に還らしめ，母は固く鄉里に停めるを求める。乙卯（51-47+1=５日），為に東衡州（梁は先に既に始興に置く、蓋し中頃廃止しまた復す）に置き，**安都**の從弟の**曉**を以て刺史と為す。**安都**の子の**秘**は，才（わずか）に九歲，**上**は以て始興內史と為し，並びに鄉に在りて侍養せ令む。

■**六月**，壬辰（28-17+1=１２日），詔して梁の**元帝**を江寧に葬し，車旗禮章は，悉く梁の典を用いる。

北齊［李氏は恥辱を晴らす］齊人は永安、上黨の二王（前卷武帝永定二年にあり、妃李氏は殺した馮文洛に賜る）の遺骨を收め，之を葬す。上黨王の妃の**李氏**に敕して第に還らしむ。**馮文洛**は尚ほ故意を以て，修飾して之に詣る。妃は盛んに左右に列ね，**文洛**を階下に立たせ，之を數（せ）めて曰く、

「難に遭いて流離し，以て大辱に至り，志操は寡薄にして，自盡（自決）する能わず。幸にも恩詔を蒙り，藩闈（藩主の閨闥）に反るを得る。汝は何物の奴ぞや，猶ほ侮られんと欲するや！」

之を杖つこと一百，血は流れて地に灑（そそ）ぐ。

■**秋，七月**，丙辰（52-46+1=７日），皇子の**伯山**を封じて鄱陽王と為す。

北齊［簒奪に迷う高演を王晞・趙彥深が勸進］齊の丞相の**演**は**王晞**の儒緩なるを以て，武將之意に允（かな）わざるを恐れ，毎夜載せて入り，晝は則ち與に語らず。嘗て**晞**を密室に進め，謂って曰く、

「比(このごろ)王侯諸貴は，毎に敦く迫られ，言う、我は天に違うは不祥なりと，恐らくは當に或は變起こる有らん。吾は法を以て之を繩(ただ)さんと欲す，何如や？」

晞は曰く、

「朝廷は比者(このごろ)親戚を疏遠にし，**殿下**は倉猝に行う所，復た人臣之事に非ず。芒刺（草木の棘、漢の霍光の事）は背に在り，上下は相い疑う，何に由りてか久しかる可きや！**殿下**は謙退し，神器を秕糠（ぬか、役立たず）せんと欲すると雖も（続は欠），實は恐らくは上玄（天）之意に違い，**先帝**（高歡）之基を墜とさん。」

演は曰く、

「卿は何ぞ敢えて此の言を發する，須く卿を法にいたすべし！」

晞（秕×）は曰く、

「天時人事は，皆な異謀無し，是を以て敢えて斧鉞を冒犯す，抑々(そもそも)亦た神明の贊する所耳。」

演は曰く、

「難を拯(すく)い時を匡(ただ)すは，方に聖哲（聖人哲人）を俟(ま)つ，吾は何ぞ敢えて私議せんや！幸いにも多言する勿かれ！」

丞相の從事中郎の**陸杳**は將に出でて使いせんとし，**晞**の手を握り，之をして勸進せ使む。**晞**は**杳**の言を以て**演**に告げ，**演**は曰く、

「若し內外鹹な此の意有れば，**趙彥深**（507-576）は左右に朝夕するに，何が故に初めより一言無きや？」

晞は乃ち事隙（公事の隙間）を以て密に**彥深**に問い，**彥深**は曰く、

「我は比(このご)亦た此の聲論（世論が皆高演に帰し、声が朝野に満ちる事）に驚く，陳聞せんと欲する毎に，則ち口噤(つぐ)み心悸す。弟は既に端を發し，吾も亦た當に昧死し一に肝膽を披(ひら)くべし。」

因りて共に**演**に勸める。

北齊［高演は遂に簒奪を決意］**演**は遂に**太皇太后**に言う。**趙道德**は曰く、

「**相王**（丞相の王、高演）は**周公**（高演と同じ立場）の**成王**を輔けるに效(なら)わず，而して骨肉相い奪わんと欲す，後世之を簒と謂うを（10-037p）畏れざる邪？」

太皇太后は曰く、

「**道德**之言は是(ぜ)也。」

未だ幾くもなくして，**演**は又た啟して云わく、

「天下の人心は未だ定まらず，恐らくは奄忽に變生じん，須く早（続は蚤）く名位を定めるべし。」

太皇太后は乃ち之に從う。

北齊［太皇太后は高演を戒める］八月，壬午（18-16+1=３日），**太皇太后**は下令し，**齊主**を廢して濟南王と為し，出でて別宮に居らしめ，常山王の**演**を以て入りて大統を纂(つ)がしめ，且つ之を戒めて曰く、

「濟南をして他有ら令むる勿れ也！」

北齊［高演は皇帝即位］**肅宗**（字は延安、高歡の第六子）は晉陽に於いて**皇帝**に即位し，大赦し，改元して皇建とす。**太皇太后**は還りて**皇太后**と稱す。**皇太后**は**文宣皇后**と稱し，宮を昭信と曰う。

北齊乙酉（21-16+1=６日），詔して功臣を紹封し，耆老に禮賜し，直言を延訪し，事に死するを褒賞し，名德に追贈す。

北齊［王晞らを顧問格に］**帝**は**王晞**に謂って曰く、

「卿は何為れぞ自ら外客に同じくし，略ぼ見る可からざるや？今より假(たと)え局司に非ざれども，但だ懷(おも)う所有れば，宜に隨いて一牒を作り，少隙を俟ち，即ち徑ちに進めるべき也。」

因りて**晞**（続は欠）と尚書の**陽休之**、鴻臚卿の**崔劼**（崔晞×）等三人に敕して，毎日職務を罷め，並びに東廊に入り，共に歴代の禮樂、職官及び田市、徴税を舉錄し，或は時に於いて便ならず而も相い承けて施し用い，或は古より利と為し而も今に於いて廢れ墜ち，或は道德高俊にして，久しく沉淪に在り，或は巧言して俗を眩まし，妖邪にして政を害する者は，悉く詳思し，漸を以て條奏せ令め。朝晡に御食を給し，畢景（景は日景、日没後帰宅を許す）還るを聽す。

北齊［帝の細かさを批判］**帝**の識度は沉敏にして，少くして台閣に居り，吏事を明習し，即位して，尤も自ら勤勵し，大いに**顯祖**之弊を革（あらた）め，時人は其の明に服し而して其の細かき（人君として小事を親らするを細とす、書経にあり）を譏る。嘗て舍人の**裴澤**に，外に在りての議論得失を問う。**澤**は率爾（突然に）として對えて曰く、

「**陛下**の聡明（陪明×）至公なること，自ら遠く古昔に侔（ひと）しくす可し。而るに有識之士は，鹹な細に傷つくを言う。**帝王**之度（度量）は，頗る未だ弘からずと為す。」

帝は笑いて曰く、

「誠に卿が言の如し。**朕**は初めて萬機に臨み，周悉（あらゆる方面にゆきわたる事）ならざるを慮り，故に爾るを致す耳。此の事は安んぞ久しく行う可けんや，恐らくは後に又た疏漏を嫌わん。」

澤は是に由りて寵遇せられる。

北齊［帝は群臣の進言を従容として受納］**庫狄顯安**は侍坐し，**帝**は曰く、

「**顯安**は，我の姑之子なり。今家人の禮を序し，君臣之敬を除き，我之不逮（欠点短所）を言う可し。」

顯安は曰く、

「**陛下**は妄言多し。」

帝は曰く、

「何が故や？」

對えて曰く、

「**陛下**は昔**文宣**の馬鞭を以て人を撻つを見，常に以て非と為す。今自ら之を行えば，妄言に非ざる邪？」

帝は其の手を握りて之を謝す。又た直言せ使め，對えて曰く、

「**陛下**は太だ細なり，**天子**は乃ち更に吏に似たり。」

帝は曰く、

「**朕**は甚だ之を知る。然るに法無きこと日久しく，將に之を整え以て無為に至らんとする耳。」

又た**王晞**に問い，**晞**は曰く、

「**顯安**の言は是也。」

顯安は，**干**（父の庫狄干は高歡の妹の楽陵長公主を娶る）之子也。群臣は進言し，**帝**は皆な従容として受納する。

北齊［帝は太后を自ら看護］性は至孝なり，**太后**は不豫（病気）なり，**帝**は行きて履を正す能わず，容色は貶悴し，衣は帶を解かざること殆んど將に四旬ならんとす。**太后**の疾は小しく增せば，**(10-038p)** 即ち閣外に寢伏し，食飲藥物は，皆な手之を親らす。**太后**は嘗て心痛して自ら堪えず，**帝**は帷前に立ち侍し，爪を以て掌を掐（お）して痛みに代え，血流は袖より出る。諸弟を友愛し，君臣之隔て無し。

北齊戊子（24-16+1=９日），長廣王の**湛**を以て右丞相と為し，平陽王の**淹**を太傅と為し，彭城王の**淑**を大司馬と為す。

●■［吳明徹は巴陵に撤退］周の軍司馬（大司馬の屬官、兵部郎中の任）の**賀若敦**は，衆一萬を帥い，武陵に奄

至す。武州刺史の**吳明徹**は拒む能わず，軍を引いて巴陵に還る。

●■江陵之陷ちる也，巴、湘之地は盡く周に入り，周は梁人をして之を守ら使む。太尉の**侯瑱**等は兵を將いて湘州に逼る。**賀若敦**は步騎を將いて之を救い，勝ちに乘りて深く入り，湘川に軍す。

●■［賀若敦は米有るを偽装］**九月**，乙卯（51-45+1=７日），周將の**獨孤盛**は水軍を將いて**敦**と俱に進み。辛酉（57-45+1=１３日），儀同三司の**徐度**を遣わして兵を將いて**侯瑱**に巴丘に會す。會々秋水は泛溢し，**盛**、**敦**の糧援は斷絕し，軍を分けて抄掠し，以て資費に供す。**敦**は**瑱**が其の糧少なきを知るを恐れ，乃ち營內に於いて多く土聚を為り，之を覆うに米を以てし，旁村の人（營傍の村人）を召し，陽りて訪問する有り，隨（ただ）ちに即ち之を遣る。**瑱**は之を聞き，良（まこと）に以て實と為す。**敦**は又た營壘を增修し，廬舍を造り久しく留まる之計を為し，湘（梁の湘州は長沙に治す）、羅（羅州は湘陰県に治す）之間は遂に農業を廢す。**瑱**等は之を如何するとも無し。

●■［侯瑱は賀若敦の策に翻弄される］是より先、土人は亟々（しばしば）輕船に乘り，米粟雞鴨を載せて以て**瑱**の軍に餉る。**敦**は之を患い，乃ち偽りて土人と為りて船を裝い，甲士を中に伏せる。**瑱**の軍人は望見し，餉船之至ると謂い，逆え來たりて爭い取り，**敦**の甲士は出で而して之を擒とす。又た**敦**の軍に數々叛人の馬に乘りて**瑱**に投じる者有り，**敦**は乃ち別に一馬を取り，牽いて以て船に趣き，船中をして逆えて鞭を以て之を鞭（むち）うた令む。是くの如き者は再三なり，馬は船を畏れて上らず。然る後に兵を江岸に伏し，人をして船を畏れる馬に乘ら使め以て**瑱**の軍を招き，詐りて投附すと雲う。**瑱**は兵を遣わして迎接せしめ，競い來たりて馬を牽き，馬は既に船を畏れて上らず，伏兵は發し，盡く之を殺す。此の後實に饋餉及び亡降する者有るも，**瑱**は猶ほ之を詐りと謂い，並びに之を拒ぎ擊つ。

●■**冬，十月**，癸巳（29-15+1=１５日），**瑱**は襲いて**獨孤盛**を楊葉洲に破り，**盛**は兵を收めて岸を登り，築城して自ら保つ。丁酉（33-15+1=１９日），司空の**侯安都**に詔して衆を帥いて**瑱**に會して南討せしむ。

北齊**十一月**，辛亥（47-44+1=５日），**齊主**は妃の**元氏**を立てて**皇后**と為し，世子の**百年**を**太子**と為す。**百年**は時に才（わずか）に五歲。

北齊［北齊は北周攻略を目指す］**齊主**は前開府長史の**盧叔虎**を征して中庶子（侍中の如し、門下坊の長）と為す。**叔虎**は，**柔**之從叔也。**帝**は時務を**叔虎**に問い，**叔虎**は周を伐つを請い，曰く、

「我は強く彼は弱し，我は富み彼は貧なり，其の勢いは相い懸（へだ）たる。然るに干戈は息まず，未だ併呑する能わざる者は，此れ強富を用いざるに失する也。輕兵野戰すれば，勝負は必し難し，是れ胡騎之法なりて，萬全之術に非ざる也。宜しく重鎭を平陽に立て，**(10-039p)** 彼の蒲州（魏の神［鹿加］元年に雍州を河東に置き、延和元年に秦州に改め、太和中に罷める。東魏は秦州を河東に置き、沙苑の敗戰後に河東は西魏に入り北周は蒲阪の旧名により蒲州を置く。山西省河東道永濟県に治す、現・運城市永済市）と相い對し，溝を深くし壘を高くし，糧を運び甲を積むべし。彼が關を閉じ出でざれば，則ち稍（ようや）く其の河東之地を蠶食（さんしょく）し，日々窮蹙せ使めん。若し彼が兵を出せば，十萬以上に非ざれば，我に敵と為るに足らず。損する所の糧食は鹹な關中に出で。我が軍士は年別に一たび代わり（軍は一年交代），穀食は豐饒なり。彼が來たりて戰いを求めれば，我は則ち應じず。彼が若し退去すれば，我は其の弊に乘らん。長安より以西は，民は疏にして城は遠く，敵兵の來往は，實に自ら艱難なり，我と相い持てば，農業は且に廢（すた）れんとし，三年を過ぎず，彼は自ら破れん矣。」

帝は深く之を善しとす。**齊主**は自ら將いて庫莫奚を擊ち，天池に至り，庫莫奚は長城（高洋が築く）を出て北に遁げる。**齊主**は兵を分けて追擊し，牛羊七萬を獲り而して還る。

■**十二月**，乙未（31-14+1=１８日），詔す、

「自今孟春より夏首に訖(いた)るまで，大辟の事は已に款する者（囚の已に款服するをいう）は，宜しく且(しばら)く申停（延期、秋冬に刑を行う）すべし。」

●■己亥（35-14+1=２２日），周の巴陵城主の**尉遲憲**は降り，巴州刺史の**侯安鼎**を遣わして之を守らしむ。庚子（36-14+1=２３日），**獨孤盛**は餘衆を將いて楊葉洲より潯(ひそか)に遁げる。（賀若敦は益々孤軍奮闘）

北齊丙午（42-14+1=２９日），**齊主**は晉陽に還る。

北齊**齊主**は人を前に斬り，**王晞**に問いて曰く、

「是の人は應に死すべきや不(いな)や？」

晞は曰く、

「應に死すべし，但だ死するに其の地を得ざるを恨む耳。臣は聞く、『人を市に刑し，衆と之を棄てる。』殿廷は戮を行う之所に非ず。」

帝は容を改めて謝して曰く、

「自今當に王公の為に之を改めるべし。」

北齊［王晞は侍中を辞退］**帝**は**晞**を以て侍郎（侍中なるべし）と為さんと欲し，苦(ねんごろ)に辭して受けず。或は**晞**に勸めて、

「自ら疏んじる勿れ」

と，**晞**は曰く、

「我は少年以來，要人（権要に居る者）を閲すること多し矣。志を得る少き時，顛覆せざるは鮮(すく)なし。且つ吾が性は實に疏緩にして，時務に堪えず，人主の恩私，何に由りてか保つ可けんや！萬一披猖（腹を立てたにかみつく）すれば，退くを求めるとも地無し。要官と作(な)るを好まざるに非ず，但だ之を思うこと爛熟する耳。」

北齊［北齊の農業充実］初め，齊の**顯祖**之末，穀糴は踴貴（騰貴）す。**濟南王**の即位するや，尚書左丞の**蘇珍芝**は石鑿（楚州安宜県の西 80 里、鄧艾は城を築き泉塘を作る、北は洪澤に連結し、屯田 13000 頃、江蘇省淮陽道寶應県、現・揚州市宝応県）等の屯を修めるを建議し，是より淮南の軍防は食足る。**肅宗**の即位するや，平州刺史の**稽曄**は建議し，督亢陂（直隸省保定道新城県の界、燕の荊軻は圖を秦に献じるはこの地、現・河北省保定市高碑店市）を開き，屯田を置き，歳ごとに稻粟數十萬石を收め，北境は周贍す。又た河内に於いて懷義（齊は河内の汲郡を分けて義州と為し懷義屯を置く、河南省河北道汲県、現・新郷市衛輝市）等の屯を置き，以て河南之費を給す。是より稍や轉輸之勞を止む。

世祖文皇帝上天嘉二年（辛巳，５６１年）

●［宇文護の専政］**春，正月**，戊申（44-43+1=２日），周は改元して保定とす。大塚宰の**護**を以て都督中外諸軍事と為す。**(10-040p)** 五府をして天官に總べ令め，事は鉅細無く，皆な先ず斷じて後に聞せしむ。

■庚戌（46-43+1=４日），大赦す。

●**周主**は圜丘に祀る。

北齊辛亥（47-43+1=５日），**齊主**は圜丘に祀る。壬子（48-43+1=６日），太廟に禘す。

●**周主**は方丘に祀す。甲寅（50-43+1=８日），**感生帝**を南郊に祀る。（鄭玄の攝により感生帝靈威仰を南郊に祀り、以て穀を祈る）乙卯（51-43+1=９日），太社を祭る。

北齊■［王琳は北齊の揚州刺史］**齊主**は**王琳**をして合肥に出で，傖楚を召募せ使め，更に進取を圖る。合州（梁は合州を合肥に置き侯景の乱に已に齊に入る。齊の境土は南は歷陽に尽きる）刺史の**裴景徽**（陳側、蓋し陳は合州を江濱に僑

置し、裴景徽を刺史とする）は，**琳**の兄の**鋭**之婿也，私屬を以て鄉導を為さんと請う。**齊主**は**琳**をして行台左丞の**盧潛**と兵を將いて之に赴か使め，**琳**は沉吟して決せず。**景徽**は事の洩れるを恐れ，挺身して齊に奔る。**齊主**は**琳**を以て驃騎大將軍、開府儀同三司、揚州刺史と為し，壽陽に鎮せしむ。

●己巳（5+60-43+1=２３日），**周主**は太廟を享け，**太祖**の述べる所の六官之法（宇文泰は廟を太祖と号す。泰が魏に相たるや、六官を建て、周禮の六典を述べ以て六官の法と為す）を班つ。

●■辛未（7+60-43+1=２５日），周の湘州城主の**殷亮**は降り，湘州は平らぐ。

■●［賀若敦は庶民に降格］**侯瑱**は**賀若敦**と相い持つこと日久しく，**瑱**は制する能わず，乃ち船を借り**敦**等を送り江を渡らんとす。**敦**は其の詐りを慮り，許さず，報じて云う、

「湘州は我の地，爾に侵逼と為る。必ず須く我に歸すべく，我を去ること百里之外なる可し。」

瑱は船を江岸に留め，兵を引いて之を去る。**敦**は乃ち自ら拔きて北に歸り，軍士の病死する者は什に五六。武陵、天門、南平（湖北省荊南道公安県、現・荊州市公安県）、義陽（湖南省武陵道安郷県、現・常徳市安郷県）、河東（湖北省荊南道松滋県、現・荊州市松滋市）、宜都郡は悉く平らぐ。晉公の**護**は、**敦**の地を失い功無きを以て，除名して民と為す。**二月**，甲午（30-13+1=１８日），**周主**は日に東郊に朝す（三代の禮、春は朝日の朝し、秋は夕月に暮す、周人は古を慕いて其の禮を挙行す）。

●[韋孝寬は諜報を善くす]周人は小司徒（北周の制、六命、上大夫なり）の**韋孝寬**（159 巻梁の武帝中大同元年にあり）が嘗て勳を玉壁に立てるを以て，乃ち勳州を玉壁に置き，**孝寬**を以て刺史と為す。**孝寬**は恩信有り，善く間諜を用い，或る齊人は**孝寬**の金貨を受け，遙に書疏を通じ，故に齊之動靜は，周人は皆な先に之を知る。主帥の**許盆**有り，戍する所の城を以て齊に降り，**孝寬**は諜を遣わして之を取り，俄に斬首し而して還る。

●［韋孝寬は巧妙に離石築城］離石（五代志に離石群に北齊は西汾州を置くと。山西省冀寧道離石県、現・呂梁市離石区）以南，生胡（稽胡の周に付属せざる者）は數々抄掠を為し，而して齊の境に居り，誅討す可からず。**孝寬**は險要に築城して以て之を制さんと欲し，乃ち河西（龍門河の西）の役徒十萬，甲士百人を發し，開府儀同三司の**姚岳**を遣わして之を築くを監ぜしむ。**岳**は兵の少なきを以て，懼れて改（続は敢）めて前まず。**孝寬**は曰く、「此の城を計るに十日にして畢わる可し。城は晉州を距てること四百餘里，吾は一日手を創めれば，二日にして敵境始めて知らん。設し晉州をして徵兵せ使むとも，三日にして方に集まり，(10-041p) 謀議之間，自ら稽まること三日，其の軍行を計るに，二日にては到らず。我之隍防（続は城防）は，辦ずるを得るに足らん矣。」

乃ち之を築か令む。齊人は果たして境上に至り，大軍有るを疑い，停留して進まず。其の夜，**孝寬**は汾水以南の介山、稷山に傍える諸村をして火を縦た使む。齊人は以て軍營と為し，兵を收めて自ら固める。**岳**は城を卒り而して還る。

■**三月**，乙卯（51-43+1=９日），太尉の零陵の壯肅公の**侯瑱**は卒す。（病を理由に帰朝を求め、道中で死去、52 歳）

●［北周の徵兵制度］丙寅（2+60-43+1=２０日），周は八丁兵（境内の民丁を八分して徵兵）を改めて十二丁兵（12 分するので 1 ヶ月徵兵となる）と為し，率ね歳ごとに一月役とす。

■**夏，四月**，丙子（12-12+1=１日）朔，日に之を食する有り。

●周は少傅の**尉遲綱**を以て大司空と為す。

●（五月）丙午（42-42+1=１日），周は**愍帝**の子の**康**を封じて紀國公と為し，皇子の**贇**を魯國公と為す。**贇**は，**李后**之子也。

■●**六月**，乙酉（21-11+1=１１日），**周主**は御正（詔勅を起草する役、中書舍人）の**殷不害**をして來聘せ使む。

●**秋，七月**，周は更に鑄錢し，文に曰く「布泉」と，一は五に當たり，五銖と並び行う。

●［諸侯の嗣子を決める］己酉（45-41+1=５日），周は皇伯父の**顯**（524 年衛可孤と戦って死す、子に什肥・導・護あり。什肥と其の叔父の連は高歡に殺され後継為し）を追封して邵國公と為し，晉公の**護**之子の**會**を以て嗣と為す。**顯**の弟の**連**を杞國公と為し，章武公の**導**之子の**亮**を以て嗣と為す。**連**の弟の**洛生**（爾朱永に殺される）を莒國公と為し，**護**之子の**至**を以て嗣と為す。**太祖**之子の武邑公の**震**（早く卒）を追封して宋公と為し，**世宗**之子の**實**を以て嗣と為す。

【肅宗急死と高湛の即位】

北齊［高湛の不安］**齊主**之**楊**（楊愔）、**燕**（燕子獻）を誅する也。長廣王の**湛**を以て太弟と為すを許す。既に而して**太子**の**百年**を立て，**湛**の心は平らかならず。**帝**は晉陽に在り，**湛**は鄴に居守す。散騎常侍の**高元海**（父の思宗は高祖の從子）は，**高祖**（高歡）之從孫也。留まりて機密を典る。**帝**は領軍の代人の**庫狄伏連**を以て幽州刺史と為し，**斛律光**之弟の**羨**を以て領軍と為し，以て**湛**の權を分ける。**湛**は**伏連**を留め，**羨**が事を視るを聽さず。

北齊［濟南王復活の阻止］是より先，濟南の**閔悼王**（濟南王殷の諡）は常に鄴に在り，氣を望む者は以わく、

「鄴中に**天子**の氣有り」

と。平秦王の**歸彥**は**濟南王**の復た立ち，己に不利を為さんと恐れ，**帝**に之を除くを勸める。**帝**は乃ち**歸彥**をして鄴に至ら使め，**濟南王**を征して晉陽に如かしむ。

北齊［高湛は濟南王擁立に失敗］**湛**は內に自ら安ぜず，計を**高元海**に問い。**元海**は曰く、

「**皇太后**は萬福，至尊の孝友は常に異なり，**殿下**は異慮するを須(もち)いず。」

湛は曰く、

「此れ豈に我の誠を推す之意ならん邪！」

元海は省に還り，一夜之を思わんと乞い，**湛**は即ち**元海**を後堂に留める。**元海**は旦に達し（10-042p）眠らず，唯だ床を繞(めぐ)りて徐歩す。夜漏未だ盡きず，**湛**は遽に出でて，曰く、

「神算は如何や？」

元海は曰く、

「三策有り，用いるに堪えざらんを恐れる耳。請う**殿下**は梁の**孝王**の故事（16 巻漢の景帝中の二年にあり）の如く，數騎を從えて晉陽に入り，先ず**太后**に見(まみ)えて哀を求め，後に**主上**に見え，兵權を去るを求め，死を以て限りと為し，朝政に干せず，必ず泰山之安を保たん。此れ上策也。然らざれば，當に表を具して，威權は太だ盛んに，謗りを衆口に取らんことを恐れ，青、齊二州刺史を請い，沉靖にして自ら居らんと雲うべし。必ず物議を招かず。此れ中策也。」

更に下策を問う。曰く、

「言を發すれば即ち族誅されんことを恐れる。」

固く之を逼り，**元海**は曰く、

「**濟南**は世嫡なり，**主上**は**太后**令を假り而して之を奪う。今文武を集め，示すに**濟南**を征する之敕を以てし，**斛律豐樂**（斛律羨の字）を執り，**高歸彥**を斬り，**濟南**を尊立し，天下に號令し，順を以て逆を討たん，此れ萬世の一時也。」

湛は大いに悅ぶ。然るに性は怯にして，狐疑して未だ用いる能わず，術士の**鄭道謙**等をして之をトせ使め，皆な曰く、

「事を擧げるに利あらず，靜ならば則ち吉。」
林慮（漢の河内郡の県、晉には汲郡に属す、魏の敬宗永安元年に林慮郡を置き、林慮県を帯びる。河南省河北道林県、現・安陽市林州市）の令の**潘子密**有り，占候を曉（さと）る，潛に**湛**に謂って曰く、
「宮車當に晏駕すべし，**殿下**は天下の主と為らん。」
湛は之を內に拘し以て之を候（うかが）う。又た巫覡をして之をトせ令め，多く云う、
「舉兵を須（もち）いず，自ら大慶有り」。
湛は乃ち詔を奉じ，數百騎をして**濟南王**を送ら令め晉陽に至る。**九月**，**帝**は人をして之を鴆せ使め，**濟南王**は從わず，乃ち之を扼殺す。**帝**は尋いで亦た之を悔やむ。
■**冬，十月**，甲戌（10-9+1=２日）朔（元嘉暦では癸酉が朔），日の之を食する有り。
北齊丙子（12-9+1=３日），齊は彭城王の**浟**を以て太保と為し，長樂王の**尉粲**を太尉と為す。
北齊［**肅宗の落馬と肋骨骨折**］齊の**肅宗**は畋に出，兎（うさぎ）有り馬を驚かし，地に墜ちて肋を絕つ（肋骨骨折）。**婁太后**は疾を視，**濟南**の所在を問う者三たび，**齊主**は對えず。**太后**は怒りて曰く、
「之を殺す邪？吾が言を用いず，死すること其の宜なり矣！」
遂に去り，顧みず。
北齊［**肅宗は殂す**］**十一月**，甲辰（40-39+1=２日），詔して以わく、
「嗣子は沖眇（幼少）なり，尚書右僕射の趙郡王の**叡**（高叡 534-569）を遣わして旨を諭し，長廣王の**湛**を征せしめて茲の大寶を統べしむ可し。」
又た**湛**に書を與えて曰く、
「**百年**は罪無し，汝は樂處を以て之を置く可し，前人に效う勿れ也。」
是の日，晉陽宮に於いて殂す（肅宗は年 27）。臨終に，言わく、
「恨むらくは**太后**の山陵を見ざることを。
北齊**顏之推**は論じて曰く、**孝昭**は天性至孝なり，而るに忌諱を知らず，乃ち此に至る，良（まこと）に不學之為す所に由る也。
北齊［**高湛皇帝即位**］趙郡王の**叡**は先ず黃門侍郎の**王松年**をして馳せて鄴に至り，**肅宗**の遺命を宣せ使む。**湛**は猶ほ其の詐りなるを疑い，親する所をして先ず殯所に詣りて，發（ひら）き而して之を視使む。使者は覆命し，**湛**は喜び **(10-043p)**，馳せて晉陽に赴き，河南王の**孝瑜**をして先ず宮に入り，禁衛を改易せ使む。癸丑（49-39+1=１１日），**世祖**（高湛、高歡の第九子、孝昭帝の母弟）は（晉陽の）南宮に於いて**皇帝**に即位し，大赦し，改元して太寧とす。

●■［**陳頊の帰還**］周人は安成王の**頊**を歸すを許し，司會（天下の大計を主る、主計官、唐の度支郎中）上士の京兆の**杜杲**をして來聘せ使む。**上**は悅び，即ち遣使して之を報じ，並せて賂いするに黔中（周は黔中を得れば巴蜀を全くす）の地及び魯山郡（周は漢沔を全くす）を以てす。
北齊［**北齊の新体制**］齊は彭城王の**浟**を以て太師、錄尚書事と為し，平秦王の**歸彥**を太傅と為し，**尉粲**を太保と為し，平陽王の**淹**を太宰と為し，博陵王の**濟**を太尉と為し，**段韶**を大司馬と為し，豐州（五代志に上黨郡鄉県に東魏は南垣州を置き、尋いで改めて豐州という。山西省冀寧道武鄉県、現・長治市武鄉県）刺史の**婁睿**を司空と為し，趙郡王の**叡**を尚書令と為し，任城王の**湝**を尚書左僕射と為し，并州刺史の**斛律光**を右僕射と為す。**婁睿**は，**韶**（婁韶は韶太后の弟）之兄（婁拔）の子也。**太子**の**百年**を立てて樂陵王と為す。
●丁巳（53-39+1=１５日），**周主**は岐陽に畋す。**十二月**，壬午（18-8+1=１１日），長安に還る。

■［煮海鹽賦を課す］**太子**の中庶子の餘姚（浙江省會稽道餘姚県、現・寧波市余姚市）の**虞荔（503-561）**、御史中丞の**孔奐**は，國用の足らざるを以て，奏して煮海鹽賦（海水を煮て取る塩税）及び榷酤（酒の専売）之科を立てんと奏し，詔して之に従う。

■［東陽の留異の討伐へ］初め，**高祖**は**帝**の女の**豐安公主**を以て**留異**之子の**貞臣**に妻あわせ，**異**を征して南徐州刺史と為し，**異**は遷延して就かず。**帝**は即位し，復た**異**を以て縉州（縉雲山に因りて州名とする、浙江省甌海道縉雲県、現・麗水市縉雲県）刺史と為し，東陽（東海×、現・金華市東陽市）太守を領せしむ（侯景の乱に梁の南郡王大連の敗れしより留異は東陽に跨據する。陳は興るも討伐出来ず、縉州刺史とする）。**異**は屢々其の長史の**王澈**を遣わして入朝せしめ，**澈**は毎に朝廷の虚弱を言い。**異**は之を信じ，外に臣節を示すと雖も，恆に兩端を懐き（陳と王琳の二股），**王琳**と鄱陽の信安嶺より潜に通使して往來す。**琳**は敗れ，**上**は左衛將軍の**沈恪**を遣わして**異**に代わらしめ，實は兵を以て之を襲わしむ。**異**は出でて下淮に軍し以て**恪**を拒み，**恪**は與に戰い而して敗れ，退きて錢塘に還る。**異**は復た上表して遜謝す。時に衆軍は方に湘、郢を事とし，乃ち詔書を降して慰諭し，且つ之を羈縻す。**異**は朝廷が終に將に己を討たんとするを知り，乃ち兵を以て下淮及び建德（漢の會稽富春県、護は分けて建德県を置く、浙江省金華道建德県、現・杭州市建德市）に戍せしめ以て江路に備える。丙戌（丙午×、22-8+1=１５日），司空、南徐州刺史の**侯安都**に詔して之を討たしむ。

世祖文皇帝上天嘉三年（壬午，５６２年）

北齊**春，正月**，乙亥（11+60-38+1=３４日?），**齊主**は（即位した晉陽宮より）鄴に至る。辛巳（17+60-38+1=４０日?），南郊に祀る。壬午（18+60-38+1=４１日?），太廟を享ける。丙戌（22+60-38+1=４５日），妃の**胡氏**を立てて**皇后**と為す，子の**緯**を**皇太子**と為す。后は，魏の兗州刺史の安定の**胡延之**之子也。戊子（24+60-38+1=４７日?），大赦す。（この間 1-2 月は元嘉暦に一致しない）

■己亥（35+60-38+1=５８日?），馮翊王の**潤**を以て尚書左僕射と為す。

●周の涼景公の**賀蘭祥**は卒す。**(10-044p)**

●［周の灌漑施設建設］壬寅（38+60-38+1=１日），周人は河渠を蒲州に，龍首渠を同州に鑿つ。

●丁未（43-38+1=６日），周は安成王の**頊**を以て柱國大將軍と為し，**杜果**を遣わして之を送りて南に歸らしむ。

■辛亥（47-38+1=１０日），**上**は南郊に祀る，**胡公**を以て天に配す。**二月**，辛酉（57-7+1=５１日?），北郊に祀る。（胡公始めて陳に封じられ、故に公を郊祀して以て天に配する）

北齊**閏月**，丁未（43-37+1=６日），齊は太宰、平陽王の**淹**を以て青州刺史と為し，太傅、平秦王の**歸彥**を太宰、冀州刺史と為す。

北齊［高歸彥の失脚］**歸彥**は**肅宗**の厚き所（楊燕を殺す功績による）と為り，勢いを恃みて驕盈にして，貴戚を陵侮（陵辱侮蔑）す。**世祖**の即位するや，侍中、開府儀同三司の**高元海**、御史中丞の**畢義雲**、黄門郎の**高乾和**は數々其の短を言い，且つ云わく、

「**歸彥**の威權は主を震わせ，必ず禍亂と為らん。」

帝も亦た其の反覆之跡（始め文宣帝に親任され、楊愔に付き孝昭帝に付き、以て済南の禍を成し、孝昭帝に委信さられる。没後武威を迎え以て天の功を貪る）を尋ね，漸く之を忌む。**歸彥**の家に還るを伺い，**魏收**を**帝**の前に召して詔草を作らしめ，**歸彥**を冀州に除し，**乾和**をして繕寫せ使む。晝日，仍ほ門司に敕し**歸彥**が輒ち宮に入るを聽さず。時に**歸彥**は酒を縦にして樂を為し，經宿して知らず。明に至り，參（朝參）ぜんと欲し，門に至りて之を知

り，大いに驚き而して退く。及び名を通じて謝し，敕して早く發せ令め，別に錢帛等の物を賜るに甚だ厚く，又た督將に敕して悉く送らしめ清陽宮（清淇の陽に在る別宮、直隷省大名道清河県にあり、現・邢台市清河県）に至る。拜辭し而して退き，敢えて與に語る莫く，唯だ趙郡王の**睿**は之と久しく語り，時に聞く者無し。

北齊［和士開は帝側近となる］**帝**之長廣王と為る也，清都の**和士開**は善く槊を握り、琵琶を彈ずるを以（發×）て寵有り，闢して開府の行參軍と為り，即位に及び，給事黃門侍郎に累遷す。**高元海**、**畢義雲**、**高乾和**は皆な之を疾み，將に其の事を言わんとす。**士開**は乃ち奏す、

「**元海**等は朋黨に交結し，威福を擅にせんと欲す。」

乾和は是に由りて疏んぜられる。**義雲**は賂を士開に納れ，兗州刺史と為るを得る。

■［周迪は留異と通じて反す］**帝**は江州刺史の**周迪**（臨川に屯す）を征して出でて湓城に鎮せしめ，又た其の子を征して入朝せしむ。**迪**は趑且（躊躇停滯）顧望（形勢觀望）して，並せて至らず。其の餘の南江の酋帥は，私に令長に署し，多く召を受けず，朝廷は未だ討を致す暇あらず，但だ之を羈縻す。豫章太守の**周敷**（先に周迪と臨川に分屯）は獨り先に入朝し，安西將軍に進號され，鼓吹一部を給し，賜わるに女妓、金帛を以（又×）てし，豫章に還ら令む。**迪**は**敷**の素より己の下に出るを以て，深く之に平らかならず，乃ち陰に**留異**と相い結び，其の弟の**方興**を遣わして兵を將いて**敷**を襲わしむ。**敷**は與に戰い，之を破る。又た其の兄の子を遣わして甲を船中に伏せ，詐りて賈人と為り，湓城を襲わんと欲し。未だ發せず，事は覺われ，尋陽太守の監江州事の晉陵の**華皎**は兵を遣わして之を逆擊し，盡く其の船仗を獲る。

■［虞寄は陳寶應を諫められず］**上**は閩州（五代志に建安郡に陳は閩州を置く、福建省建安道建甌県、現・南平市建甌市）刺史の**陳寶應**之父（陳羽）を以て光祿大夫と為し，**(10-045p)**子女は皆な封爵を受け，宗正に命じて屬籍に編入せしむ。而るに**寶應**は**留異**の女を以て妻と為し，陰に**異**と合す。**虞荔**の弟の**寄**は，閩中に流寓し，**荔**は之を思いて疾を成し，**上**は**荔**の為に之を征し，**寶應**は留まりて遣らず。**寄**は嘗て從容として諷するに逆順を以てし，**寶應**は輒ち它語を引いて以て之を亂す。**寶應**は嘗て人をして《漢書》を讀ま使め，臥し而して之を聽き，**蒯通**の**韓信**に說きて、

「君之背を相するに，貴きこと言う可からず。」

と曰うに至り、蹶然として起坐して，曰く、

「智士と謂う可し」

と、**寄**は曰く、

「**通**は一たび說きて三士を殺す（酈食其を烹、田橫を敗り、韓信を驕らす），何ぞ智と稱するに足らん！豈に**班彪**が《王命》（41 卷漢光武帝建武五年にあり），歸する所を識るに若かん乎！」

寄は**寶應**の諫める可からざるを知り，禍いの己に及ぶを恐れ，乃ち居士の服を著け，東山寺に居り，陽りて足疾と稱す。**寶應**は人をして其の屋を燒か使め，**寄**は安臥して動かず。親近は將に之を扶けて出でんとし，**寄**は曰く、

「吾が命は懸かる所有り，避けて將に安くに往かん！」（跡を閩中に託し、生死の命は人の手に懸る、これを避ける所無きをいう）

火を縱つ者は自ら之を救う。

北齊乙卯（51-37+1=１５日），齊は任城王の**湝**を以て司徒と成す。

北齊■［王琳を鄴に更迭］齊の揚州刺史の行台の**王琳**は數々南を侵さんと欲し，尚書の**盧潛**は以て時事の未だ可からざると成す。**上**は壽陽に移書を遣（続は無し）り，齊と和親せんと欲す。**潛**は其の書を以て齊

朝に奏し，仍って上啟し且く兵を息まんと請う。**齊主**は之を許し，散騎常侍の**崔瞻**を遣わして來聘せしめ，且つ南康の**愍王**は**曇朗**（166 巻梁の敬帝太平元年に殺される）之喪を歸す。**琳**は是に由りて**潛**と隙有り，更に相い表列す。**齊主**は**琳**を征して鄴に赴かしむ，**潛**を以て揚州刺史と為し，行台尚書を領せしむ。**瞻**は，**凌**（高歡が信都に挙兵時の参佐）之子也。

■［五銖錢の改鑄］梁末の喪亂に，鐵錢（梁の普通年間に発行）は行われず，民間は私に鵝眼錢を用いる。甲子（60-37+1=２４日），改めて五銖錢を鑄，一は鵝眼之十に當たる。

後梁［後梁主は殂す］**後梁主**は儉素に安んじ，酒色を好まず，猜忌多しと雖も，而も將士を撫して恩有り。封疆の褊隘なりて，邑居殘毀し，干戈は日々に用いられるを以て，鬱鬱として志を得ず，疽は背に發し而して殂す（年 44）。平陵に葬し，謚して**宣皇帝**と曰い，廟號を**中宗**とす。**太子**の**嶷**（蕭嶷、字は仁遠、宣帝の第三子）は**皇帝**に即位し，改元して天保とす。**龔太后**を尊びて**太皇太后**と為し，**王后**を**皇太后**と曰い，母の**曹貴嬪**を**皇太妃**と為す。

■●［周は陳頊を返還］三月，丙子（12-6+1=７日），安成王の**頊**（陳頊は後に陳の 4 代皇帝）は建康に至り，詔して以て中書監、中衛將軍と為す。**上**は**杜杲**に謂って曰く、

「家弟は今禮遣を蒙り，實に周朝之惠みなり。然るに魯山を返さざれば，亦た恐らくは未だ此に及ぶ能わず。」（魯山を周に返還したからこそ安成王の頊が返還された）

杲は對えて曰く、

「**安成**は，長安の一布衣なる耳，而れども陳之介弟也，其の價は豈に止だ一城而して已むならん哉！本朝は敦く九族を睦し（10-046p），己を恕して物を及ぼし，上は**太祖**の遺旨に遵い，下は好みを繼ぐ之義を思い，是を以て之を遣りて南に歸らしむ。今乃ち雲う、尋常（導常×）之土を以て骨肉之親に易える，使臣之敢えて聞する所に非ざる也。」

上は甚だ慚じ，曰く、

「前言は之に戲れる耳。」

杲を待つ之禮加わる有り焉。

■●［頊妃も返還］**頊妃**の**柳氏**及び子の**叔寶**は猶ほ穰城に在り，**上**は復た**毛喜**を遣わして周に如きて之を請わしめ，周人は皆な之を歸す。

【周迪・留異の討伐】

■［周迪討伐軍］丁丑（13-6+1=８日），安右將軍の**吳明徹**を以て江州刺史と為し，高州刺史の**黃法𣰰**、豫章太守の**周敷**を督して共に**周迪**を討たしむ。

■甲申（20-6+1=１５日），大赦す。

■［侯安都は留異を擊破］**留異**は始め台軍は必ず錢塘より上らんと謂い，既に而して**侯安都**は步して諸暨（漢より以來會稽郡に属す、浙江省會稽道諸暨県、現・紹興市諸暨市）永康（呉の赤烏八年に上虞・烏傷を分けて立て、東陽郡に属す。浙江省金華道永康県。永安より東陽まで 109 里。現・金華市永康市）に出で，**異**は大いに驚き，桃枝嶺に奔り，巖口に於いて柵を豎て以て之を拒む。**安都**は流矢の中たる所と為り，血流は踝に至り，輦に乘りて指麾し，容止は變わらず。其の山勢に因り，迮り而して堰を為る。會々潦水は漲滿し，**安都**は船を引いて堰に入り，樓艦を起こし**異**の城と等しくし，拍を發して其の樓堞を碎く。**異**は其の子の**忠臣**と身を脫して晉安に奔り，**陳寶應**に依る。**安都**は其の妻及び餘の子を虜とし，盡く鎧仗を收め而して還る。

■［向文政の降伏］**異**の黨の**向文政**は新安に據り，**上**は貞毅將軍（梁は置く、班は第二十五の五徳将軍の下に在り。

陳の制では官品第五に擬す）の**程文季**を以て新安太守と為し，精甲三百を帥いて徑（続は軽）ちに往きて之を攻めしむ。**文政**は戦いて敗れ，遂に降る。**文季**は，**靈洗**之子也。

北齊［高湛は早くも乱れる］**夏，四月**，辛丑（37-36+1=２日），齊の**武明婁太后**は殂す。**齊主**は服を改めず，緋袍故の如し。未だ幾くもなくして，三台に登り，酒を置き樂を作し，宮女は白袍を進める，**帝**は諸を台下に投ず。散騎常侍の**和士開**は樂を止めるを請い，**帝**は怒り，之を撾（う）つ。

北齊■乙巳（41-36+1=６日），齊（帝×）は遣使して來聘す。

北齊齊の青州は上言す、

「河水は清む」

と，**齊主**は遣使して之を祭り，改元して河清とす。

●［周の群臣の待遇改善］是より先，周之群臣（続は君臣×）の封爵を受ける者は皆な未だ租賦を給せず。癸亥（59-36+1=２４日），始めて詔して、柱國等の貴臣の邑戸は，它縣に寄食するを聽す。

●**五月**，庚午（6-6+1=１日），周は大赦す。

北齊己丑（25-6+1=２０日），齊は右僕射の**斛律光**を以て尚書令と為す。

●壬辰（28-6+1=２３日），周は柱國の**楊忠**を以て大司空と為す。**六月**，巳亥（35-6+1=３０日），柱國の蜀國公の**尉遲迥**を以て大司馬と為す。

■**秋，七月**，己丑（25-5+1=２１日），**太子**の妃の**王氏**を納れる，金紫光祿大夫の**周**之女也。

北齊［高歸彦の反乱］齊の平秦王の**歸彦**は冀州に至り，內に自ら安ぜず，**齊主**が晉陽に如くを待ちて，虛に乘りて鄴に入らんと欲す。**(10-047p)** 其（王国）の郎中令の**呂思禮**は之を告げる。大司馬の**段韶**、司空の**婁睿**に詔して之を討たしむ。**歸彦**は南境に於いて私驛を置き，大軍の將に至らんとするを聞き，即ち閉城して拒み守る。長史の**宇文仲鸞**等は從わず，皆な之を殺す。**歸彦**は自ら大丞相と稱し，衆四萬有り。**齊主**は都官尚書の**封子繪**が，冀州人にして，祖父は世々（父の隆之、祖父の回）本州刺史と為り，人心を得るを以て，傳に乘りて信都に至ら使め，城を巡り，諭ずるに禍福を以てし，吏民の降る者は相い繼ぎ，城中の動靜は，小大皆な之を知る。

北齊［高歸彦の誅殺］**歸彦**は城に登りて大呼して云わく、

「**孝昭皇帝**は初めて崩ずるや，六軍は百萬あり，悉く臣の手に在り，身を投じて鄴に向かい，**陛下**を奉迎す。當時は反せざるに，今日豈に反する邪！正に恨むらくは、**高元海**、**畢義雲**、**高乾和**は**聖上**を誑惑し，忠良を疾忌するを，但だ為に此の三人を殺し，即ち城に臨みて自ら刎（くびは）ねんのみ。」

既に而して城は破れ，單騎にして北走し，交津（水經注に衡漳水は武邑郡の南を經て又北して武強県の北を經、又東北して武隧県の故城の南を經、白馬河は之に注ぐ。水上に滹沱を承け、東して樂鄉県の北、饒陽県の南を經、又東南して武邑郡の北を經、而して東して衡漳水に入る、之を交津口と謂うと）に至り，之を獲，鎖して鄴に送る。乙未（乙巳×、31-6+1=２６日），載せるに露車を以てし，木（板）を銜み面縛す。**劉桃枝**は之に臨むに刃を以てし，鼓を擊ちて之に隨い，其の子孫十五人を並せて皆な棄市す。**封子繪**に命じて冀州事を行わしむ。

北齊**齊主**は**歸彦**が前に清河王の**岳**を譖する（166 巻梁の敬帝紹泰元年にあり）を知り，**歸彦**の家の良賤百口を以て**岳**の家に賜り，**岳**に太師を贈る。

北齊丁酉（33-6+1=２８日），**段韶**を以て太傅と為し，**婁睿**を司徒と為し，平陽王の**淹**を太宰と為し，**斛律光**を司空と為し，趙郡王の**睿**を尚書令と為し，河間王の**孝琬**を左僕射と為す。

北齊（八月）癸亥（59-34+1=２６日），**齊主**は晉陽に如く。

■北齊**上**は遣使して齊に聘す。

■**九月**，戊辰（4-4+1=１日）朔，日之を食する有り。

■侍中、都官尚書の**到仲舉**を以て尚書右僕射、丹楊尹と為す。**仲舉**は，**溉**（到彦之の曾孫、梁初に文学を以て顕れ、廉潔清城を以て称す）之弟の子也。

■［**吳明徹は周迪を破れず**］**吳明徹**は臨川に至り，**周迪**を攻め，克つ能わず。丁亥（23-4+1=２０日），安成王の**頊**に詔して之に代わらしむ。

■［**陳の倹約令**］**冬，十月**，戊戌（34-33+1=２日），詔して以わく、

「軍旅の費えは廣く，百姓は空虚なり，凡そ乗輿に供する飲食衣服及び宮中の調度は，悉く減削に従わん。百司に至るまで，宜しく亦た省約を思うべし。

●**十一月**，丁卯（3-3+1=１日），周は趙國公の**招**を以て益州總管と為す。

北齊■丁丑（13-3+1=１１日），齊は兼散騎常侍の**封孝琰**を遣わして來聘す。

北齊**十二月**，丙辰（52-32+1=２１日），**齊主**は鄴に還る。

北齊［**齊主は前皇帝の李后を虐待**］**齊主**は逼りて**昭信**の**李后**に通じ，曰く、**(10-048p)**

「若し我に従わざれば，我は爾の兒を殺す！」

后は懼れ，之に従う。既に而して娠有り。太原王の**紹德**は閤に至り，見えるを得ず，愠（いか）りて曰く、

「兒は豈に知らざる邪！姊の腹は大なり，故に兒を見ず。」

后は大いに慚じ，是に由りて女を生み舉げず。**帝**は刀を横にして詬（ののし）りて曰く、

「我が女を殺す，我は何ぞ爾の兒を殺さざるを得んや！」

后に對し刀環を以て築きて**紹德**を殺す。**后**は大哭し，**帝**は愈々怒り，**后**を裸にし，之を亂撾す。**后**は天に號（さけ）んで已まず，**帝**は命じて盛るに絹囊を以てし，流血は淋漉たり， 諸（これ）を渠水に投じる。良く久しく乃ち蘇（よみが）えり，犢車に載せて妙勝寺に送り尼と為す。

令和５年６月５日　　11444 文字

令和５年６月 26 日　 24456 文字